

第2回防災人材交流セミナー

2012年11月24日

於 名古屋大学豊田講堂

委託業務実施報告書

特定非営利活動法人 レスキューストックヤード

【地域別参加者一覧】

市町村	人数
愛西市	5
阿久比町	4
あま市	8
安城市	6
一宮市	9
稲沢市	10
犬山市	1
岩倉市	1
大口町	1
大治町	5
大府市	3
岡崎市	9
春日井市	10
蒲郡市	5
刈谷市	2
北名古屋市	3
岐阜県	4
清須市	6
江南市	3
小牧市	7
瀬戸市	6
高浜市	1
武豊町	8
田原市	2
知多市	7
知立市	3
津島市	10
東海市	3
東郷町	2
常滑市	6
豊明市	1
豊川市	6
豊田市	11

市町村	人数
豊橋市	16
長久手市	1
名古屋市熱田区	4
名古屋市北区	1
名古屋市昭和区	17
名古屋市千種区	8
名古屋市天白区	7
名古屋市中川区	4
名古屋市中区	7
名古屋市中村区	4
名古屋市西区	9
名古屋市東区	7
名古屋市瑞穂区	6
名古屋市緑区	4
名古屋市港区	9
名古屋市南区	2
名古屋市名東区	6
西尾市	5
日進市	5
半田市	13
東浦町	6
扶桑町	2
碧南市	2
三重県	2
美浜町	1
みよし市	1
弥富市	9
名古屋市守山区	1
不明	3
合計	330

【セミナー概要】

開会挨拶

名古屋大学 減災連携研究センター

センター長

福和 伸夫



愛知県防災局

局長 小林 壯行



基調講演 「地域を愛し、地域に根ざして生き生きと活躍する生徒の育成」

宮城県南三陸町立歌津中学校 教諭 佐藤 公治

本校では、「防災教育」というより「危機管理」という観点から、取り組んでいる。3.11の体験を踏まえ、「ヒーローは要らない、将来大人になった時の防災力を向上させる教育が必要」と認識している。そのため仕組みづくりとして、職員全員が4つの部のどれかに属して活動。津災記録部／教育相談部／生徒支援部／地域貢献部。平成24年度は、平常時の防災教育に重点を置いている津災記録部以外は、24年度も継続活動中)。志（こころざし）教育や道徳教育にも注力。災害時に生き残り、その後に自分の役割を果たさなければいけないと教えている。



特別レクチャー「南海トラフ巨大地震の被害予測と対策」

◆国・愛知県における被害想定全体の全体像

名古屋大学 減災連携研究センター センター長 教授 福和 伸夫

平成24年8月29日の公表内容について。2013年に大きな見直しを予定していたところ、2011年の3月11日に東日本大震災が起き、前倒しで南海トラフ巨大地震に対して、予測を出している最中。全容が明らかになるのはこれから。ただし、いえることは、これまでの対策を変える必要はない、一段と大きな被害を予測し備えることが大切である。32万人の被害予測は、6万1千人に減らせる可能性がある。



◆南海トラフ巨大地震の新たな想定について

名古屋大学 減災連携研究センター 教授 鷺谷 威

南海トラフ巨大地震の学術的観点から解説する。プレートの沈み込みによって起きる歪みの跳ね返りによっておき、また繰り返して起きる地震である。3.11前の想定は、1707年の宝永地震クラス。3.11が起きて、考えられる最大級を想定することに見直しされた。3.11の解析で、断層のずれが海溝軸まで破壊した(=3.11の高い津波の要因とされる)ことが判明。「最大規模の地震」の意味とは、発生確率は限りなくゼロに近いが、可能性が否定できないので、備える必要はあるということ。



◆揺れについて

名古屋大学 減災連携研究センター 准教授 護 雅史

震度/地震動によって、どのように揺れるか?どこが強く揺れるか?を追跡している。固い地盤=揺れは早く伝わる。浅い部分(やわらかい部分)は揺れが増幅される。2003年と2012年の名古屋市街の予測を比較すると震度7想定になった面積は、10倍に。震度6強想定になって面積は5倍。震度6弱想定は3倍。建物への影響で比べると、6強と6弱では、被害に大きな差がある。強震断層モデルは、まだ確度の高いパラメータが確立されておらず、また、免震・減震のビルの揺れ方についても研究途上にある。



◆津波被害について

名古屋大学 減災連携研究センター 准教授 川崎 浩司

津波とは、5分～12時間の長周期（参考：普段の波の周期は数秒から十秒程度）。東日本大震災時でも、30分周期だった。2メートルの津波の意味：現時点の海面から2m盛り上がるということ。つまり、満潮／干潮で実際の被害はかなり違ってくる。50センチの津波の意味：人は、耐えられませんが、徐々に後ろに下がらされる。車、小型船舶も流される。名古屋港の高潮堤防の高さ8メートルの意味：名古屋港基準（海拔との差は-1.4m）に対する8mであって、海拔に対しては5.6mの高さ。さらに、津波により港に大量の海水が流れ込んできたら、海面は、盛り上がる。数字の意味について、しっかり理解してほしい。



◆液状化被害

名古屋大学 減災連携研究センター 副センター長 教授 野田 利弘

関東地方：埋め立て地盤の脆弱性。東北地方：津波により、調査できなかった部分のあったことを差し引いても少ない。それを踏まえて、南海トラフ巨大地震想定の中の液状化の予測について。液状化による全壊家屋は2万3千棟（愛知県で）の予測（3.11に浦安で、20棟だったことからすると、飛躍的に大きな数字）濃尾平野は緩い（密度の小さい）砂質地盤。地下水位の高い飽和地盤。過去に液状化し再液状化する地盤。猿投山から養老山地に向けて傾斜している「粘土と砂の互層地盤」。木曾三川による水資源の潤沢さ、干拓による開墾。海拔ゼロメートル地帯180km²（昭和32年）→274km²（平成11年）が、拡大している（高度経済成長期における地下水揚水への影響）。



◆ライフラインについて

名古屋大学 減災連携研究センター 教授 北野 哲司

ライフラインの早期復旧には、通常「線（＝管）」で供給しているが、ネットワーク化されていることが重要。愛知県は、県から市町村へ水を供給しているが、異なる水系の浄水場間をネットワーク化して、危険分散ができています。名古屋市も水系が2つあるというのも、危険分散面から有効。中部電力：外周を囲むような送電線の張り方、火力発電所（新潟にも持っている）、水力発電所のバランスよい。東邦ガス：中部電力の工場との間（知多⇄四日市）にネットワーク（海底線）を構築中地盤の歪みによって被害を受けにくいNS方ダクティル管／ポリエチレン管の敷設を進めている。



◆津波火災・地震火災について

名古屋大学 減災連携研究センター 准教授 廣井 悠

東日本大震災での火災は、2種（地震火災、津波火災）。地震火災の被害の第3位は東京都（1位は宮城県）。大都市は火災に弱い。地震火災の怖さは、出火が同時多発するため、通常の消防能力では、消しきれない。地域力で、消火できる限界を認識することも大事。もう一方の津波火災は、海面上でがれきに火がついた火災のこと。海上で火が付いた瓦礫を再び海岸線（高台の避難所付近にまで）が津波第2、第3波によって海岸線に沿って打ち付けられ、広範囲の火災を引き起こす。消火が難しい。まだ注目され始めたばかりで、現時点の想定の中にこの津波火災は含まれていない。



◆まとめと今後の課題の洗い出し

すべての課題を一度に整理しながら、聞けた場としての意義があり。

◆ミニシンポジウム

～各協力団体から、この一年の活動の報告を聞き、今後自分たちの活動に生かす～

あいち防災リーダー会 磯村 美智子

NPO 法人 耐震化アドバイザー協議会 副理事 有我 高司

なごや防災ボラネット 岡田 雅美

コメンテーター 宮城県立歌津中学校 佐藤 公治

コーディネーター レスキューストックヤード 栗田 暢之

磯村美智子氏：東浦町の活動報告。会員は80名。災害ボランティアコーディネーター養成講座を町／社協／ボランティアの三者一体となって実施している。場所は、小中学校。児童館等でも（子育て世代向け）。各地区の防災訓練の際の講演もしている。外国人（東浦町約1000人居住）のために、日本で生まれ育った子どもたちを育成している。民生委員／リーダー会／自主防災組織の連携が今後の課題。



有我高司氏：耐震化アドバイザー協議会（発足H19→NPO法人化H21）。県の耐震化アドバイザー養成講座修了者有志。ハウジング&リフォームあいち（24年3月）出展。家具転倒防止器具の展示、耐震化工事無料相談会等を実施。住まいの耐震改修大相談会（8月に実施）。耐震化アドバイザー養成講座の運営（昨年から）。建築家による専門性の高い修了生530名のうち当協議会のメンバーは17名、資格をもっているが眠っている人材を掘り起

こすのが、今後の課題。

岡田雅美氏：なごや防災ボラネット。東海豪雨をきっかけに始まった名古屋市の「災害ボランティアコーディネーター養成講座」修了生有志の会。「災害ボランティアコーディネーターなごや」発足→16区にそれぞれ組織ができ、横をつなぐ「なごや防災ボラネット」の場で毎月情報交換会をしている。(現在は BiVo やリーダー会などが加わり 20 団体) 本年度は、若者 (39 歳以下) 対象の「災害ボランティアコーディネーター養成講座」を実施。



若い新しいメンバーの開拓が課題。緑区 (岡田氏の地域) は、28 小学校区で防災訓練を行っている。栗田暢之：最終的には、住民が主役でなければ意味がないので、3 団体とも行政と住民の橋渡しの活動が主であることが、共通している。



佐藤公治氏：被災してみても、改めて住民一人一人の意識の問題が大きいと実感している。「宮城県沖地震が来る」ことは知っていたが、東日本大震災の前後では、その重みが全然違う。国民全員が中学生を経験するという事実、また、防災訓練をするといったとき、保護者からのクレームは皆無という実態を生かしていくべき。

閉会挨拶

防災人材交流セミナー実行委員会

世話人 川端 寛文



散会 (17 : 02)

◆当日運営に関する備忘録



豊田講堂入口の看板（90×150）

講堂内の壇上にも吊り下げ看板を予定したが、スクリーンとの併用ができず、とりやめ。

看板の取り付けは、建物（記念建築物なので）を傷つけない素材（紐など）で行うこと。針金は禁止。



開場時間の1時間前より打ち合わせ、セッティング開始

シンポジオンより、机、椅子を持ち出し（事前にシンポジオン利用者に了承を得た）

ミーティングは、以外に時間がかかる、担当ごとにリーダーを決めておくと連絡がスムーズに。

豊田講堂の空調は、早めに稼働させると適温に。



アトリウムに面して、地域別受付の様子（地域別に看板。地域別名簿。地域別要員配置）

セミナー受付の奥に、交流会参加受付を設置（セミナー参加者に口頭で案内した）

参加者はうまく分散し、受付は、しむーずだった



アトリウム側へ、流れを誘導する柵。効果あり。

（受付済み者との同線交差を防止する役目も）



交流会参加費受付テーブル（手前）ときずな工房作品／書籍
「筋飼家のものがたり」取扱テーブル
テキストは、講堂入口に置き、参加者にとってもらった
売上数／金額の照合までを担当である旨、しっかり伝達する
必要があった



当日司会

備忘録

- ・受付は、同規模来場者の防災減災カレッジの際とくらべ、スムーズに受け付けられた。
- ・きずな工房商品は、思いのほか売れた（約1万6千円）
- ・休憩が1回しかなく、タイムスケジュールの遅れを調整するのが難しかった（講師の先生に時間調整をお願いせざるを得なかった）
- ・講師控室に人員配置が無く、講師の先生への対応が手薄になった（お茶、お弁当担当が配置できるとよかった）
- ・記録担当は必要（1名）

交流会（於：名古屋大学 生協 南部会館 17：30～）

出席数：94名

来賓：佐藤公治先生



地域別交流会の始め



地域別交流の司会



乾杯へと会場の前の方に人が移動



挨拶（野田先生）



乾杯（吹上氏）



地域別交流会の報告（伊藤氏他。地域別。全部で8地域）



まとめ（廣井先生）



一本締め

散会